

Title	私の本棚
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾大学理工学部
Publication year	2024
Jtitle	新版 窮理図解 No.42 (2024. 11) ,p.7- 7
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	慶應理工の美術：アーティスティックな観察眼を培う 外国語・総合教育教室 荒本文果 (准教授)
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO50001002-00000042-0007

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

私の 本棚

My favorite books

●『La Grande Officina. Arte Italiana 1460-1500』

(André Chastel 著 Rizzoli)

パリ大学とコレージュ・ド・フランスで美術史の教鞭をとられたアンドレ・シャステル先生のご著書 *Le Grand Atelier d'Italie 1460-1500* (1965) のイタリア語訳。ローマ第一大学に留学した初年度に、イタリア・ルネサンス美術史の手引きとして読んだ思い出深い本です。言葉の意味を体感するために、本書を持参して言及されている美術作品を見て回りました。フランス語原本や日本語訳(『イタリア・ルネッサンスの大工房 1460-1500』)と突き合わせることで、語学の勉強にも役立ちました。

●『近代絵画史(上・下)』

(高階秀爾 著 中央公論新社)

高階秀爾先生のご著書といえば『美の思索家たち』や『名画を観る眼』などが一番に浮かぶかと思います。そのうえでご紹介したいのが、『近代絵画史(上・下)』です。本書は、私のようなフランス美術史の門外漢にとっても非常に分かりやすく、先生のどの著作もそうですが、美術の解説でありながらそこはかとなく感動をも呼び起こす一冊です。西洋文化を理解しようとする日本人として見習うべき姿勢も感じられ、本書を含めて、高階先生のご著書は何度も読み返しています。

●『白夜行』(東野圭吾 著 集英社)

東野圭吾先生の作品は、情景や人物の描写、物語展開などすべてが緻密で、描き出された世界が眼前に広がるだけにとどまらず、そこにある音、温湿度、触感までもが再現されるような文章力にいつも脱帽してしまいます。人間のダークな側面を描き出す『白夜行』は、読んでいて苦しくなる時もありますが、東野先生のご著書がミステリーという枠組みを超えた真の文学作品であることを証明していると思います。寝不足覚悟でお読みください。

●『変身物語(上・下)』

(オウィディウス 著 中村善也 訳 岩波書店)

西洋美術史を学ぶうえで、『聖書』とともに必読書なのは、ギリシャ・ローマ神話です。古代ローマの詩人オウィディウスの『変身物語』は、神話の登場人物が様々なものに姿を変えていくさまが面白く、私たちがよく知っている戯曲や童話の着想源にもなっています。異教世界のお話ですが、中世キリスト教時代には、キリスト教的に読みかえた『教訓版 変身物語』が著されるなど、西洋思想に与えた影響は計り知れません。

●かこさとし『かがくの本(全10巻)』(かこさとし 童心社)

子育てのなかで、かこ先生の絵本に再会し、こどもの頃とは違う深みを感じています。10巻からなる本シリーズは、こどもの身近な体験を通して科学的な思考へと導くものです。第7巻「なんだかぼくにはわかったぞ」は、〈材質〉の特徴を学ぶものですが、その「あとがき」で先生は、重要なのは暗記ではなく「もっと単純で、もっとおく底の、もっと基本的なもの——科学としての態度、科学のすじみちをこそ貫きたいと念じた」と書かれています。学びは楽しく、身近なものから広がっていくことを改めて思い出させてくれる良書だと思います。